



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの

2021年
10月

2021年10月29日

Vol
153

「トレンドとサイクル」という分類で、
日々のニュースを整理することをオススメします。

さまざまなメディアで報道されるニュースによって、日々マーケットは上がったり下がったりを繰り返しています。コールセンターにも、「あのニュースは買い(売り)材料なのか」というお問い合わせが多く寄せられます。

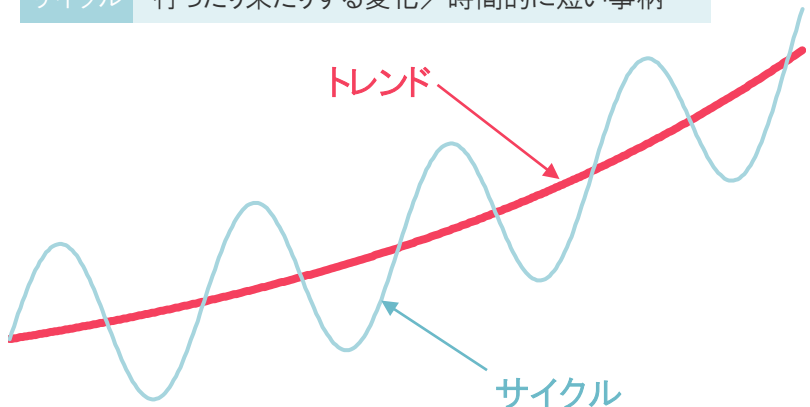
長期にわたって資産形成と向き合うためには、マーケットを動かすニュースに一喜一憂せず、トレンドかサイクルかを見極め、分類し整理していくことが大切です。

トレンドは、一度変わると中々戻らない時間的に大きな流れのこと。そしてサイクルは、行ったり来たりする変化のように時間的に短い事柄のことです。もちろん、長期の資産形成において大切なのは、トレンドの方であることは言うまでもありません。

今回は、ニュースを見るうえで知っておきたいトレンドとサイクルについてお話します。

■(図-1)トレンドとサイクル

トレンド	一度変わると戻らない変化／大きな流れ
サイクル	行ったり来たりする変化／時間的に短い事柄





コールセンターからの、小さなよみもの

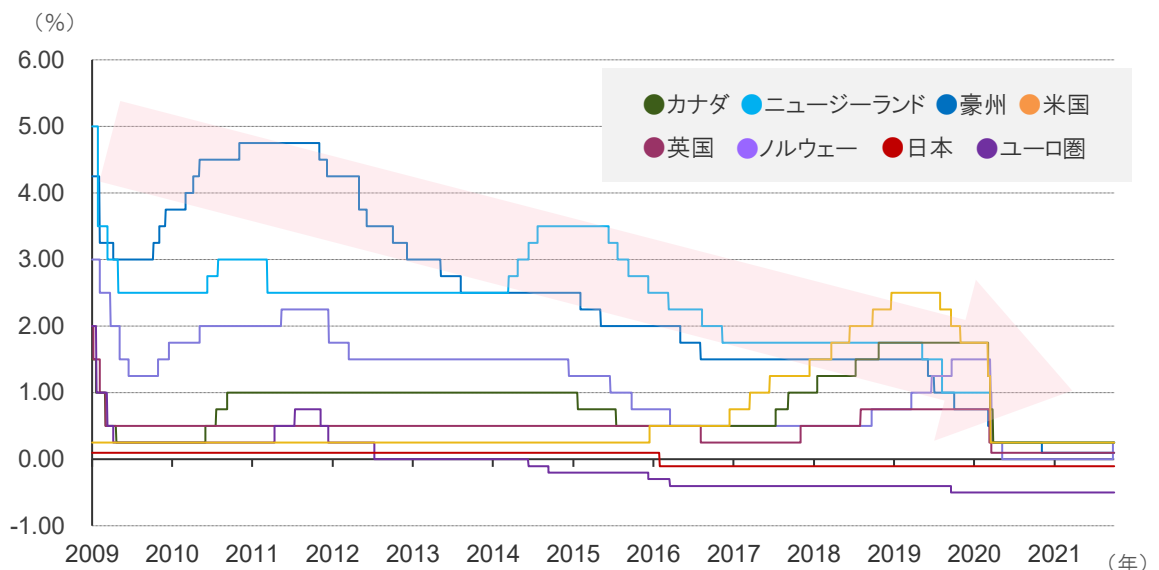
2021年
10月

“リーマン・ショックからの正常化”

いまマーケットで進行しているトレンドとは、“リーマン・ショックからの正常化”だと整理することができます。リーマン・ショック(2008年に起こった100年に1度とも言われる金融危機)を受けて、主要先進国の中央銀行は政策金利の引き下げに舵を切りました。日本やユーロ圏ではマイナス金利政策に踏み切るなど、現在も各国の政策金利は低いまま推移しています(図-2)。つまり、リーマン・ショックから経済が回復していくという大きな流れ(=トレンド)が継続して進行していると考えられるというわけです。

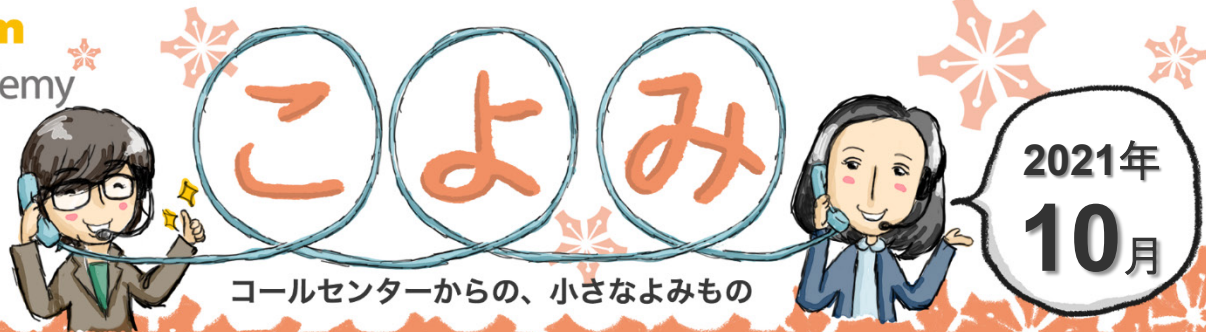
ですから、日々マーケットを動かすニュースであっても、“リーマン・ショックからの正常化”というトレンドを一変させるものでなければ、サイクルに分類します。連日トップニュースで報じられたコロナ・ショック、トランプ前政権やバイデン政権の財政政策なども、トレンドのなかで行ったり来たりするひとつのサイクルに過ぎないということになります。

■(図-2)主要先進国の政策金利の推移(2009年1月初～2021年9月末)



注：日本は2013年4月4日以降、量的・質的緩和、2016年1月29日マイナス金利付き量的・質的金融緩和
※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。



コールセンターからの、小さなよみもの

「トレンド？サイクル？」迷ったときは[こちら](#)をチェック

日々のニュースは、トレンドを変えるほどのニュースなのか、サイクルを引き起こすだけのニュースなのかという視点で、冷静に分類していくことが大切です。その際には、トレンドを一変させるようなニュースはそう滅多にないことを覚えておくとう良さそうです。

もし、「このニュースはどう解釈したらいい？」と迷ったときは、弊社ホームページ内の[KAMIYAMA View](#)をチェックしてみてください。チーフ・ストラテジストの神山直樹が、動画とレポートでマーケットの“今”を解説しています。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

スペシャルサイト KAMIYAMA View のご紹介 ▶▶チーフ・ストラテジスト神山直樹が気になるあの話題を動画とレポートで徹底解説。

マーケットの“今”を知る

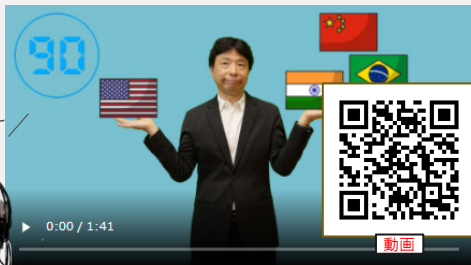
KAMIYAMA View

チーフ・ストラテジスト神山直樹が語るマーケットと投資



ポータルサイト

【最新号】
『米国金利高と新興国』



サムネイル
クリックで、
視聴できます！

KAMIYAMA Seconds!

90秒でマーケットニュースをズバリ解説。

【最新号】
『米金利上昇が新興国に悪影響を及ぼすとはいえない』



サムネイル
クリックで、
読めます！

KAMIYAMA Reports

ホットなテーマを深く分析し丁寧に解説。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。